

(6) 2016年(平成28年) 3月17日(木曜日)

2月末くらいでしょうか、買い物に行ったらピンク色のうさぎのぬいぐるみが飾られているのを見るようになります。またここ数日は色とりどりのたまごの飾り物も見かけるようになります。日本ではそんなに見かけない(実は私も日本を離れて25年になるので最近では日本でも見かけるのかもしれませんが)このうさぎや色のついたたまごはイースターのお祝いのためのものです。

うさぎはイースターバニーと呼ばれるもので、イースターの季節に良い子にうさぎがプレゼントを持つてくるという話があるのです。中世のドイツで始まった風習のようですが、このイースターバニーが持つて来るプレゼントが色とりどりのたまごやキャンデーだったそうです。なぜイースターにうさぎがたまごを持つてやってくるのかというと、話をもっとさかのぼります。キリスト教会のはじめの頃

なぜイースターにうさぎとたまごなのか、これだけだとまだよくわかりません。そもそもイースターとは何なのかを理解しないとうさぎとたまごが出てくる意味はわからな

ちの証言が聖書の中にある。死んだ人が蘇る、馬鹿げた話だと思いませんか。あり得ないですよ。『死んだら、終わり』これが日本人の常識です。しかし、イエスの弟子たちは蘇ったイエス・キリストに会い、その声を聞き、一緒に食事をしたということです。まあ世の中には信じられない話がいっぱいありますが、その中でも最も信じられない話の一つがこのイエスの復活だと思えます。

この証言が聖書の中にある。死んだ人が蘇る、馬鹿げた話だと思いませんか。あり得ないですよ。『死んだら、終わり』これが日本人の常識です。しかし、イエスの弟子たちは蘇ったイエス・キリストに会い、その声を聞き、一緒に食事をしたということです。まあ世の中には信じられない話がいっぱいありますが、その中でも最も信じられない話の一つがこのイエスの復活だと思えます。ところが現在地球上で生きている人間の約3分の1、20億を超える人がこのイエス・キリストの復活を信じ、イースターを祝っているのです。イースターエッグは「いのち」を象徴しています。しかもそれは「復活のいのち」です。死んでも生きる命があるのです。そして、イースターバニーが運んでくるプレゼントは「喜び」の象徴です。イエス・キリストが十字架の上で死に、墓に葬られ、3日目に蘇ったと信じる人にはこの「復活のいのち」が与えられるのです。死をもう恐れることはない、これほど大きな「喜び」は他にありません。イースターはイエス・キリストの復活を記念する日です。それは「復活のいのち」が人間に与えられることを「喜び」日です。

南加キリスト教会連合

復活の日、イースター

大里 英二

2016年は3月27日がイースターの日曜日となります。ぜひお近くの教会に行ってもっと詳しくイエス・キリストの復活の話を聞いてみてください。

(ガーデナバレーバプテスト教会牧師)